

評価結果の政策への反映状況報告書

政策の名称	政策の目的・目標	政策評価の結果の概要	政策評価の結果の政策への反映状況
ITを活用した正倉院宝物の紹介	正倉院宝物の調査研究資料を、ITを活用して広く一般に紹介し、正倉院宝物に対する理解と関心の促進を図る。	<p>e-Japan重点計画-2002-(平成14年6月28日IT戦略本部決定)では、「国民の文化志向の高度化と多様化に対応し、様々な文化財、美術品、地域文化、舞台芸術等に関する情報が地理的な制約を受けずにどこにおいても入手・利用できる環境を整備する。」とされており、国や社会のニーズに照らして必要があった。</p> <p>また、地理的な制約を受けずにどこにおいても入手・利用できる環境を整備したことについては、有効な手段であった。</p> <p>運用に際しては、既存のシステムに組み入れたことにより、web用機器、データベースソフト及び監視業務のランニングコストを新たに必要としないことは効率的であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者からの意見をもとに、正倉院紀要の刊行にあわせて、追加掲載を行った。</li> <li>・今後は、有識者及び一般から寄せられた意見の中で要望が多かった、紹介宝物点数の増加について、すべての宝物のカラーフィルム・モノクロフィルム・ガラス乾板・X線フィルム・顕微鏡写真のデジタル化を行い、インターネット上で多彩な視点から宝物の閲覧を可能にすることを目指す。</li> <li>・既に刊行されている正倉院紀要のスキマニングを行い、インターネット上で正倉院宝物に対する研究成果の資料を提供することを目指す。</li> </ul>
皇室関連施設の参観の利便性の向上等	皇居の参観コースの見直し等により、参観者の利便性の向上等を図り、併せて皇室関連施設に対する理解と関心の促進を図る。	<p>皇居参観をした人からは、二重橋を渡りたい、一般の人は自由に散策できる東御苑内を団体行動の制約無く参観したい、等の要望が多く寄せられていた。</p> <p>今回の参観コースの変更により、参観距離を短縮するとともに勾配の急な坂(2ヶ所)等を避けたことから、参観の途中で休所に戻る人も大幅に減少した。また、正門鉄橋(二重橋)を渡れることとなり、テレビ・新聞等による報道も寄与したと考えられるが、過去5年間の平均と比較すると、個人の参観の申込み件数が約6倍となった。</p> <p>参観後のアンケートによると、多くの人が参観の距離・時間はちょうどよいと回答し、皇室施設への理解・関心が深まったとする回答が7割以上を占め、多くの人から二重橋が渡れてよかったとの回答を得た。</p> <p>以上、参観者の要望や負担の軽減と安全の確保の観点から、参観コースを変更する必要があり、参観者の利便性の向上、皇室関連施設に対する理解と関心の促進などの観点から、有効であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も参観者の利便性向上等を図り参観者にとってより快適な参観ができるよう参観者のニーズを満たすため、参観業務のスタッフを充実させる必要があることから、そのための費用を平成17年度概算要求(1,490千円)に盛り込んだ。</li> <li>・参観者に対するアンケートの実施等により、参観者のニーズの把握に努めるとともに、アンケートに寄せられた意見を踏まえ、参観者にとって良い参観となるよう努めていくこととする。</li> </ul>